

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病 害 名 : ウコン青枯病 (秋ウコン青枯病、春ウコン青枯病及び紫ウコン青枯病)

2 病 原 菌 : *Ralstonia solanacearum* (レース4)

3 発 生 地 域 : 沖縄本島北部

4 発 生 作 物 : 秋ウコン、春ウコン、紫ウコン

5 発生確認の経緯

- (1) 平成26年2月、沖縄本島北部の秋ウコン、春ウコン及び紫ウコンの栽培ほ場において、葉の黄化、萎凋及び根茎の腐敗症状が発生した(写真1~5)。沖縄県病害虫防除技術センターと(独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センターが共同で診断を実施したところ、*Ralstonia solanacearum* レース4による秋ウコン青枯病、春ウコン青枯病及び紫ウコン青枯病であることが明らかとなった。本県において、レース4による青枯病が確認されたのは初めてである。
- (2) 本病原菌のレースは平成7年に国内で初めて高知県の観賞用クルクマで発生が確認されており、平成9年以降は、同県内のショウガ及びミョウガで報告があった。また、今回本県で発生した秋ウコン、春ウコン及び紫ウコンでの発生は初めてである。
- (3) 九州地域における発生は、平成20年に鹿児島県、平成21年に長崎県及び宮崎県、平成25年に熊本県で発生が確認されている。

6 病徴

- (1) 地上部では、はじめに下位葉が黄化して萎凋する。
- (2) 黄化・萎凋はその後速やかに上位葉へと進展し、植物全体が萎凋し、枯死に至る。
- (3) 発病株は、生育が抑制され著しく減収する。罹病塊茎を水に浸漬すると切断面から菌泥の漏出が確認される(写真6)。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

本病原菌は細菌の一種で、宿主植物に対する寄生性の違いにより5つのレースに類別され、ショウガ科の植物ではレース4のみが発病する(表)。また、宿主植物がなくとも土壌中や水中で長期間生存し、伝染源となる。罹病した種ウコンも重要な伝染源となる。

病原菌は、水によって伝搬され、地下部の傷口から植物体に侵入する。侵入後は植物体内で増殖し、株を萎れさせるとともに次の伝染源となる。大雨などでほ場が浸水すると水によって運ばれた病原菌が広範囲に感染し、病気が急激に拡大する場合もある。また、管理作業による傷口などからも伝染し、感染を拡大していく。

8 防除対策

- (1) 種ウコンによる伝染を防ぐため、発生ほ場で採取した種ウコンは使用しない。
- (2) 土壌伝染性の病害であるため、発生ほ場の土壌を未発生ほ場に持ち込まない。
- (3) 発病した株は伝染源となるので、直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却処分する。抜き取った発病株付近は継続して観察する。
- (4) 病原菌は水によって伝搬されるので、ほ場の排水対策を徹底する。
- (5) 発生したほ場では、ショウガ科及びナス科作物以外を植え付けることにより、次作以降の発生を回避する。

表 ショウガ科青枯病菌系統及び在来系統の病原性(土屋, 2008)

検定植物	病原力(萎凋程度)		
	レース4 (ショウガ科由来)	レース1 (トマト、ナス由来)	レース3 (ジャガイモ由来)
トマト	0～中	中～強	0～弱
ナス	弱～中	中～強	0
ピーマン	弱～中	中～強	0
タバコ	HR	弱～中(HR)	0
ジャガイモ	弱～強	弱～中	中～強
クルクマ	弱～強	0～弱	-
ショウガ	中～強	0	0
ミョウガ	中～強	0	0

HR : 過敏感反応, - : 試験せず

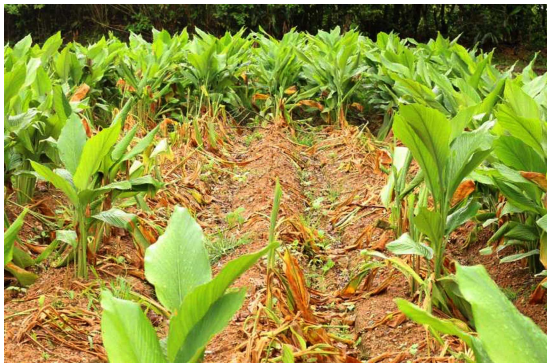


写真1. 発生圃場の様子



写真2. 茎部切断面の褐変(左:健全、右:罹病)



写真3. 秋ウコンの罹病塊茎

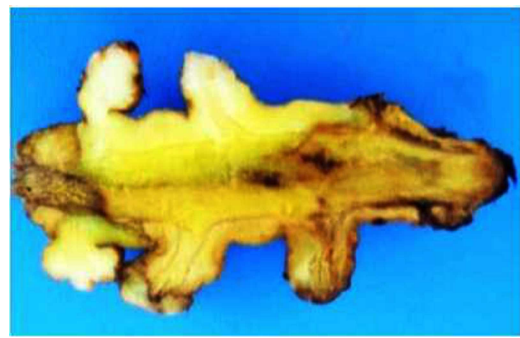


写真4. 春ウコンの罹病塊茎



写真5. 紫ウコンの罹病塊茎

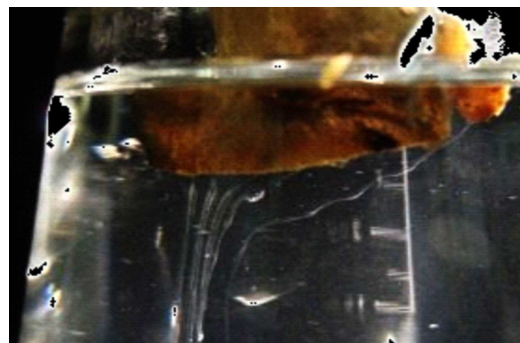


写真6. 塊茎切断面から漏出する白色菌泥

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: 098-886-3880

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>